

**OPTION INTERNATIONALE DU BACCALAURÉAT  
SESSION 2015**

SECTION : JAPONAISE

ÉPREUVE : LANGUE ET LITTÉRATURE

DURÉE TOTALE : 4 HEURES

Le candidat devra traiter 1 sujet sur les 2 proposés

Le sujet est composé de 6 pages; numérotées de 1 à 6.

*Les dictionnaires sont interdits.*

## 国語

次の設問Ⅰ、Ⅱのどちらか一つを選び、解答しなさい。(二つとも解答している場合は無効となる。)

## 設問一

山の手線の電車にはね飛ばされてけがをした、そのあと養生に、一人で但馬の城の崎温泉へ出かけた。

志賀直哉『城の崎にて』（一九一七年）

彼に指さされて、私は川向こうの共同湯の方を見た。湯気の中に七、八人の裸体がぼんやり浮かんでいた。

仄暗い湯殿の奥から、突然裸の女が走り出して来たかと思うと、脱衣場のとつばなに川岸へ飛びおりそうな格好で立ち、両手をいつばいに伸べて何か叫んでいる。手拭もないまっ裸だ。それが踊子だった。若桐のように足のよく伸びた白い裸身を眺めて、私は心に清水を感じ、ほうつと深い息を吐いてから、ことごと笑った。子供なんだ。私たちを見つけた喜びでまっ裸のまま日の光の中に飛び出し、爪先まで背いつばいに伸び上がるほどに子供なんだ。私は朗らかな喜びでことごとと笑い続けた。頭が拭われたように澄んで来た。微笑がいつまでもとまらなかつた。

踊子の髪が豊か過ぎるので、十七、八に見えていたのだ。その上娘盛りのように装わせてあるので、私はとんでもない思い違いをしていたのだ。

川端康成『伊豆の踊子』（一九二六年）

右の引用にも見られるとおり、志賀直哉作『城の崎にて』、川端康成作『伊豆の踊子』はどちらも温泉地を舞台とした小説である。そこで、温泉という場がそれぞれの作品において果たしている役割について、一六〇〇字以上で論じなさい。解答には所定の原稿用紙を用いること。

## 設問二

あとの問題文を読んで、次の問いに答えなさい。なお、指示のある場合は、所定の原稿用紙に解答すること。

問一 傍線部①「身をえらなきものに思なして」とは、どういうことが説明しなさい。

問二 傍線部②「すむぐき國」とは、「をとり」にとってどのような所か説明しなさい。

問三 傍線部③「ほとびにけり」とは何がどのような状態になったことを指すか説明しなさい。

問四 傍線部④「かゝる道はいかでかいまする」について次の質問に答えなさい。

質問一 「かゝる道」とはどのような所か。具体的に説明しなさい。

質問二 「かゝる道はいかでかいまする」の一文を現代語訳しなさい。

質問三 「<sup>す</sup>修行者」がこのように言ったのはなぜか。説明しなさい。

問五 傍線部⑤「こゝにたとへば」の「こゝ」とはどのことか。

問六 傍線部⑥「その河のほとりにむれぬて思ひやれば、限りなく遠くも來にけるかなとわびあくるに」とあるが、この部分を適当な語句を補いながら現代語訳しなさい。

問七 傍線部⑦「京に思ふ人なきにしもあらず」とあるが、どういうことが説明しなさい。

問八 傍線部⑧「これなむ都鳥」という言い方には「渡守」のどのような気持ちが表れているか説明しなさい。

問九 傍線部⑨「舟こそりて泣きにけり」とあるがそれはなぜか。理由を説明しなさい。

問十 傍線部 A 「から衣きつゝなれにしつましあればはるばるきぬる旅をしぞ思ふ」の歌に用いられている  
修辞上の技巧について説明し、その効果について説明しなさい。なお、所定の原稿用紙を用いて、四〇〇字  
以上で解答すること。

問十一 傍線部 A 「から衣きつゝなれにしつましあればはるばるきぬる旅をしぞ思ふ」、  
傍線部 B 「駿河なる宇津の山辺のうつゝにも夢にも人にあはぬなりけり」、傍線部 C 「名にし負はばいざこ  
ととはむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと」の三つの歌を通じて、この旅における「を」との心情の変化  
を論じなさい。なお、所定の原稿用紙を用いて、六〇〇字以上で解答すること。